

海外安全対策情報（令和5年度第2四半期分）

1. 社会・治安情勢

イラン国内における社会情勢については、昨年9月16日以降、当地においてイラン当局にヘジャブ指導を受けた女性が死亡したことを受けて、テヘラン市ほかイラン各都市の主要道路、広場等においてデモなどの抗議活動が発生し、複数の死傷者が発生しました。

ヘジャブの着用に関しては、イラン政府が的確に着用しない者に対する摘発強化を掲げているほか、抗議活動自体は沈静化したものの、イラン当局のインターネット規制によるものとされる通信障害がイラン全土で現在でも継続的に発生していることから、今後の情勢如何では、抗議活動が再燃する可能性も否定できず、引き続き予断を許さない状況となっております。

イラン国内におけるテロ・襲撃事件については、平成29年6月7日にテヘラン市内の国会事務所建物内及びイマーム・ホメイニ廟周辺において、複数の武装グループによる銃撃や自爆攻撃により18名が死亡、約50名が負傷するテロ事件が発生して以降、テヘラン市内では10名以上の死者を出す大規模なテロ関連事件の発生は報じられておりませんが、令和2年8月7日には、テヘラン市パスタラン地区における銃撃事件が報じられ、同年11月27日には、テヘラン東方約60kmの距離に位置するダマーヴァンド市付近で、ファフリザーデ国防軍需省研究刷新機構長官の殺害事件が発生したほか、昨年5月22日にはテヘラン市東部において革命ガード大佐が殺害される事件が発生しています。なお、テヘラン市内の特異事案として、本年1月27日に在イラン・アゼルバイジャン大使館に男が押し入り、大使館関係者3名が死傷する銃撃事件が発生しています。

テヘラン市以外の地域では、北西部及び西部イラク国境付近、南東部パキスタン国境付近及び南西部において武装組織・テロ組織と治安機関との戦闘が散発的に発生しているほか、昨年10月26日及び本年8月13日には、イラン南部ファールス州シーラーズ市内中心部に所在するシャー・チェラグ廟において銃撃事件が発生し、それぞれ複数の死傷者が発生したと報じられております。なお、両事件は、いずれもイスラム過激派組織「イラク・レバントのイスラム国（ISIL）」が行ったものと報じられております。

イラン国内における一般犯罪をめぐる情勢については、依然として、殺人、強盗、窃盗、性犯罪等の犯罪の発生が、イラン国内の広い範囲で多々報じられていることから、イラン国内における行動については、十分に注意が必要です。

また、最近のイランをめぐる国際情勢及び新型コロナウイルス（COVID-19）の感染状況についても十分注意が必要です。

安全関連情報等については、当館から必要に応じて注意喚起情報を発出しておりますが、定期的に最新の報道や当館又は外務省海外安全ホームページを御確認いただくなど、自らの安全確保のための情報収集に心掛けてください。

2. 一般犯罪の傾向

(1) 概要

イランでは、犯罪発生件数に関する統計が公表されていませんが、各種報道によると、日常的に一般犯罪が発生しているものと考えられます。邦人に対する主な被害として、強盗（偽警察官による強盗、けん銃及び刃物を使用した強盗等）、窃盗（ひったくり、スリ、空き巣、忍込み等）等の事件が発生しております。また、観光客の少ない地方都市において、外国人女性の一人旅を狙った性犯罪が発生していることから、地方都市においては、女性の単独行動は極力控えるなどの注意が必要です。

最近の一般犯罪に関する報道は以下のとおりです。

- 7月1日付の報道によると、4月21日、テヘラン市南部で麻薬密輸グループ同士の抗争で銃撃戦が発生し、偶然その場に居合わせたアフガニスタン人の男性1名が流れ弾に当たって死亡した。約1ヶ月後警察は被害者を銃撃した麻薬密売人の男を逮捕した。

- 7月4日付の報道によると、乗客から金品を脅し取っていた白タクの男らが警察に逮捕された。

犯人らは白タクの運転手と乗客を装って乗客を乗せ、車中でナイフ等を出して被害者らから金品を脅し取っていた。犯人らは盗難車又は偽造ナンバーを用いて犯行を繰り返していたため捜査は難航していたが、数日前に警察が車内で争っている車を発見したため停車させたところ、犯人らと乗客がもみ合っている最中であり、犯人らは警察に逮捕された。

- 7月6日付の報道によると、7月2日、テヘラン市西部において家政婦が雇用されている家から10万ドル相当の外貨を盗んだことで逮捕された。犯行発覚当時、警察は家に強引に入った痕跡が無かったことから、関係者による犯行を疑い、家政婦を捜索し、被害品とともに身柄を確保した。

- 7月16日付の報道によると、詳細時期は不明なるも、4月5日にテヘラン市内において携帯電話を強奪しようとして若い男性をナイフで殺害した男ら2人が、警察に窃盗と殺人の罪名で逮捕された。

- 7月19日付の報道によると、7月17日、テヘラン市内においてバイク乗りから金銭をだまし取っていた2名の偽警官が警察に逮捕された。偽警官らの所持品からは偽物の身分証や催涙スプレーが押収された。

- 7月23日付の報道によると、詳細時期は不明なるも、テヘラン市南部において女性や弱者から携帯電話や金品を強奪していたギャンググループの構成員らが警察に逮捕された。

- 7月30日付の報道によると、詳細時期は不明なるも、テヘラン市北部及び東部で空き巣を繰り返していた窃盗犯2名が警察に逮捕された。男らの手口はバルコニーから侵入し、防犯カメラを全て破壊して犯行に及ぶという手法であったが、最後の犯行となったテヘラン市北部の家において、家人が海外にいることを知っていた男らが油断し覆面を外したところを隠しカメラが撮影しており、男らの逮捕に繋がった。

- 8月9日付の報道によると、詳細時期は不明なるも、テヘラン市内のとある家族に看護師として雇われていた者が雇い主の家族の家に空き巣を行い逮捕された。

看護師の女は雇い主である高齢女性の世話をしていたが、「夫が交通事故にあっ

た」といって高齢女性の娘を母親の家に呼び寄せ、同娘が留守の間に、同娘の家にて空き巣を行った。看護師は自分の家族とともに犯行に及んでおり、被害現場に設置された防犯カメラの映像がきっかけで逮捕された。

- 8月9日付の報道によると、最近、テヘラン市内でアフガニスタン人同士の喧嘩で死傷者が相次いだ。8月5日の夜、数人のアフガニスタン人が工事現場でナイフや棒を用いて喧嘩となり1名が死亡したほか、8月7日には10名のアフガニスタン人が乱闘となり、1名が死亡した。
- 8月22日付の報道によると、詳細時期不明なるも、7月に金細工職人にナイフで重傷を負わせて4キロの金塊を強奪した強盗犯の主犯格が逮捕された。警察によると、犯人らは7月に金細工職人から金塊を強奪した後、一味の2人が強奪した金塊を金販売店に持ち込んだものの、不審に思った同店から通報を受けた警察が2人を逮捕し、その後の捜査で主犯格が特定され、同主犯格も逮捕された。
- 8月23日付の報道によると、詳細時期不明なるも、テヘラン市内で携帯電話の窃盗を繰り返していた3名のギャンググループの構成員が警察に逮捕された。逮捕された若者3名は貧困により窃盗を行わざるを得なかったとして、被害者らに謝罪した。
- 8月27日付の報道によると、詳細時期不明なるも、テヘラン市北部において女性が「無料の食事を持ってきた」と偽って家人にドアを開けさせ、その後3名の武装した男らが押し入って金品を強奪するといった事件が発生した。警察は当初犯人らの身元の特定が出来なかったが、被害者の娘が犯人の一味の女性を知っていたため、犯人らが特定された。
- 9月4日付の報道によると、詳細時期不明なるも、テヘラン市北部のタジリッシュ広場にて、刃物を用いて若い男性の携帯電話を奪おうとした強盗犯2名が警察に逮捕された。警察によると、犯人らは10件の余罪があるとのことであった。
- 9月18日付の報道によると、詳細時期不明なるも、テヘラン市西部の高級住宅にて居住者の高齢女性の遺体が発見され、被害者の住居に掃除夫として出入りしていた男が被害者宅から多額の貴金属等を強奪した容疑で警察に逮捕された。犯人の男は、家に押し入った際には既に被害者は死亡していたとして、被害者殺害の容疑を否認している。
- 9月19日付の報道によると、詳細時期は不明なるも、テヘラン市北部において窃盗犯の男2名が正に女性から警察電話を窃取しようとしたタイミングに警察が遭遇した。警察官は男らに停止するよう警告したが男らがバイクで逃走したことから追跡劇となり、最中警察官による警告射撃も無視して逃走したため、最終的に警察官らが男らを射撃した結果、男らの1名に当たり、バイクはガードレールに衝突した。この追跡劇により、男らの内1名が病院で死亡し、後の捜査で男ら2名はこれまでも窃盗を繰り返していたことが判明した。

(2) 邦人被害事案

第2四半期中における邦人被害の報告は以下のとおりです。

- 8月25日深夜、在留邦人がテヘラン市北部所在の公園にて現地の友人と座っ

ていたところ、凶器を持った4人組の若者に囲まれるとともに刃物を首元に当てられ、スマートフォンを奪われた。

3. テロ事件等発生状況

(1) テヘラン市内

テヘラン市内では、平成29年6月7日に発生したI S I Lによるテロ以降、テロ関連事件の発生は報じられておりませんが、昨年5月22日には、テヘラン市東部において革命ガード大佐がバイクに乗った2人組に銃撃され、死亡する事案が発生しています。

また、テヘラン市内の特異事案として、本年1月27日に在イランアゼルバイジャン大使館に男が押し入り、大使館関係者3名が死傷する銃撃事件が発生しています。

(2) 北西部及び西部イラク国境付近

北西部及び西部イラク国境地域では、クルド人独立国家の建設を目指す「P J A K (クルド自由生活党)」等による治安部隊等を標的としたテロが散発しておりますが、最近も以下のテロ事件等が報じられました。

○ 7月10日付の報道によると、6月にケルマンシャー州で革命ガード隊員2名が死亡した事件につき、情報当局は西アゼルバイジャン州から国外逃亡を試みていた容疑者らを逮捕した。

○ 9月24日付の報道によると、バーグリ統合参謀本部長は同日、イラク政府と合意したイラク北部のクルド系武装勢力の9月19日までの武装解除合意に関し、6ヶ月の履行期間において、わずかにイラン国境から後退したと述べた。

(3) 南東部パキスタン国境付近

南東部パキスタン国境地域には、「ジェイシュ・アルアドル」、「アンサールル・フォルガン」と称するバルーチ系スンニ派反政府組織等が存在し、同組織らによる治安部隊等を標的としたテロが散発しておりますが、最近も以下のテロ事件等が報じられました。

○ 7月8日付の報道によると、同日、シスタン・バルチスタン州州都ザヘダンの警察署が4名のテロリストに襲撃され、応戦した警官隊により全員が殺害された（警察官3名死傷）。本件事件では「ジェイシュ・アルアドル」が犯行を辞任する声明を発出した。

○ 7月23日付の報道によると、同日、シスタン・バルチスタン州州都ザヘダンにおいて、任務中であった交通警察官らがテロリストに襲撃され、4名が死亡した。

(4) 南西部

南西部には、「アル・アフワズ」と称するアラブ系反政府組織等が存在し、過去同組織らによる治安部隊等を標的としたテロが発生しておりますが、最近も以下のテロ事件等が報じられました。

○ 7月24日付の報道によると、フーズスタン州イーゼにおいて武装窃盗団と警察官が交戦し、警察官2名が死亡した。

(5) その他の地域

上記地域以外におけるテロ関連事件としては、8月13日、ファールス州シーラ

ーズ市内中心部に位置するシャー・チェラーグ廟において銃撃事件が発生し、9名が死傷したと報じられております（同所では、昨年10月26日にもISILによるものとみられる銃撃事件が発生しております。）。なお、本事件では、ISILの関与が報じられております。

2. 抗議行動発生状況

当地では昨年9月以降、ヘジャブの着用が不適切だとして拘束された女性の死亡を発端とする抗議活動がイラン全土で発生し、テヘラン市ほかイラン各都市の主要道路・広場・大学においてデモ等が散発的に発生した結果、複数の死傷者及び拘束者が発生しました。

本件抗議活動については、発端となった死亡女性の1周忌となる本年9月16日及び本年10月上旬にテヘラン市内地下鉄で10代の女性が卒倒・昏睡状態に陥りその後同人が死亡したには「道徳警察」の暴力が原因ではないかの指摘もある事案の発生後も大規模な抗議活動は発生せず、沈静化したと思われませんが、当局のインターネット規制によるものとされる通信障害が現在も継続的に発生しているほか、ヘジャブ着用に関しては、治安当局が未着用者等に対する摘発を強化する方針を示しております。

これ以外にも、今後の国内外の情勢如何では、当地で新たな抗議活動が発生する可能性があるため、今後の動向については予断できませんところ、当地滞在の際は不測の事態に巻き込まれないよう当面の間、幅広く最新の情報の入手に努めつつ行動してください。また、抗議に参加する意図はなくとも、抗議活動の現場においてデモ隊と治安当局の衝突等に巻き込まれることにより、暴行を受けたり、身体を拘束されたりする等不測の事態に遭遇するおそれがあるため、抗議活動が行われている場所には近づかない、写真や動画等の撮影はしない、周辺状況を踏まえて早めの帰宅を行うなど、自らの安全確保に努めることが必要です。

5. 誘拐・脅迫事件発生情報

(1) 誘拐事件

第2四半期中、以下のとおり外国人を標的とした誘拐事件が発生しております。

- 7月29日付の報道によると、詳細時期は不明なるも、テヘラン市内でアフガニスタン人を身代金目的で誘拐した3名のパキスタン人が逮捕された。誘拐犯らは被害者家族に対して3000ドルの身代金を要求し、被害者家族が身代金を支払ったにも関わらず被害者を解放しなかったため、通報を受けた警察が誘拐犯らを逮捕し、被害者を解放した。

(2) 脅迫事件

第2四半期中、外国人が脅迫事件の対象となったとの情報はありません。

6. 日本企業の安全に関わる諸問題

現時点では、当地における日本企業及び外国企業を対象とした脅威は特段見られません。ただし、上述のとおり、当地では、ヘジャブ指導を受けた女性の死亡に対する抗議活動が昨年9月に発生し、今後の抗議活動の動向については予断できませんところ、引

引き続き注意が必要です。冒頭に記載したとおり、定期的に最新の報道や当館又は外務省海外安全ホームページをご確認いただくなどして、自らの安全確保のための情報収集を心掛けてください。